



令和8年度第4回小高区義務教育学校設立 検討準備協議会の資料に関する意見集約

【結 果】

南相馬市教育委員会



目次

1 調査の概要

- 1.1 調査の概要 P 3
- 1.2 調査の対象者 P 3
- 1.3 調査期間 P 4
- 1.4 調査方法 P 4
- 1.5 回収結果 P 5
- 1.6 調査項目 P 6

2 調査結果

- 2.1 小中一貫教育（義務教育学校）の有効性について P 7
- 2.2 施設一体型義務教育学校を目指す理由について P15
- 2.3 新しい学校での9年間の教育活動について P22
- 2.4 小高小・小高中の今後のあり方について P29



1 調査の概要

1.1 調査の目的、1.2 調査の対象者

調査の目的

8月に開催した令和8年度第4回小高区義務教育学校設立検討準備協議会の協議事項である「小高小・小高中の今後のあり方と義務教育学校の方向性」について、保護者の方々から意見を頂戴し、9月の協議会での議論に活用するため。

調査の対象者

No.	区分	調査対象者	対象世帯
1	未就学児 保護者	小高小学校、小高中学校の通学区域に居住する 未就学児（6歳以下）の保護者（世帯）	4 3
2	在籍児童 保護者	小高小学校に在籍する 小学1年生から小学6年生の保護者（世帯）	6 3
3	在籍生徒 保護者	小高中学校に在籍する 中学1年生から中学3年生の保護者（世帯）	3 0
合 計			1 3 6

※No.1～No.3複数の区分に該当する保護者については、最も年上の子どもを基準とする区分で集計。



1 調査の概要

1.3 調査期間、1.4 調査方法

調査期間

令和8年9月7日から令和8年9月14日

調査方法

No.	区分	調査対象者	調査方法
1	未就学児 保護者	小高小学校、小高中学校の通学区域に 居住する未就学児（6歳以下）の 保護者（世帯）	資料を郵送、回答はWebで行う
2	在籍児童 保護者	小高小学校に在籍する 小学1年生から小学6年生の 保護者（世帯）	資料を配布、回答は用紙を回収
3	在籍生徒 保護者	小高中学校に在籍する 中学1年生から中学3年生の 保護者（世帯）	資料を配布、回答は用紙を回収



1 調査の概要

1.5 回収結果

No.	区分	調査対象者	対象世帯	回答世帯	回収率 (%)
1	未就学児 保護者	小高小学校、小高中学校の通学区域 に居住する未就学児（6歳以下）の 保護者（世帯）	43	6	14.0
2	在籍児童 保護者	小高小学校に在籍する 小学1年生から小学6年生の 保護者（世帯）	63	26	41.3
3	在籍生徒 保護者	小高中学校に在籍する 中学1年生から中学3年生の 保護者（世帯）	30	3	10.0
合 計			136	35	25.7



1 調査の概要

1.5 回収結果、1.6 調査項目

◎ こどもの学年

学 年	児童生徒数
小学1年生	8
小学2年生	6
小学3年生	6
小学4年生	7
小学5年生	2
小学6年生	4
中学1年生	1
中学2年生	0
中学3年生	2
未就学児	9
合計	45

※回答があった35世帯中、児童生徒数（未就学児含む）は45人。

◎ 調査項目

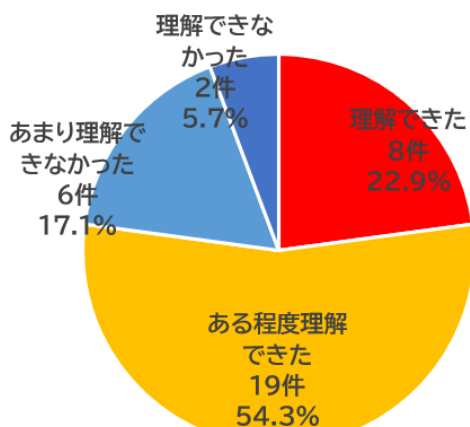
区分	項 目
属性	こどもの学年
内容	小中一貫教育の有効性について 施設一体型の義務教育学校を目指す理由について 新しい学校での9年間の教育課程・学校活動について



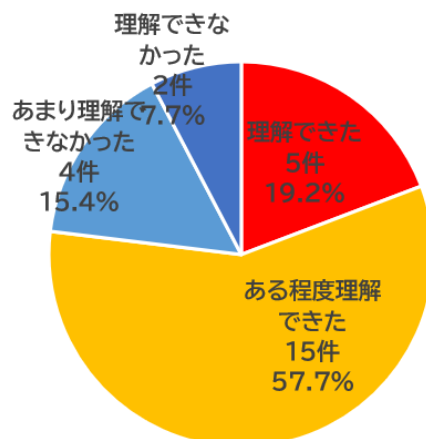
2 調査結果

2.1 小中一貫教育（義務教育学校）の有効性について

全 体
(n=35)



在籍児童保護者
(n=26)



「小中一貫教育（義務教育学校）の有効性」について、どの程度理解できたか。
（1つを選択）

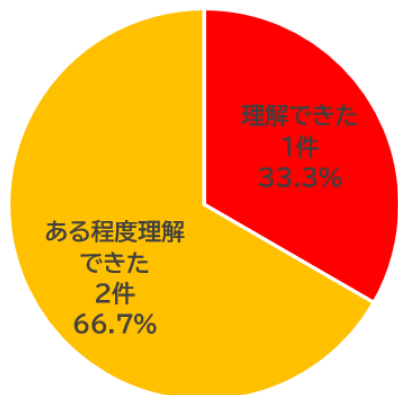
「小中一貫教育（義務教育学校）の有効性」について、資料を読んでどの程度理解できたか回答をいただいたところ、「理解できた」「ある程度理解できた」と回答した割合が、全体では77.2%（27件）となっている。

在籍児童保護者においては、「理解できた」「ある程度理解できた」との回答が7割を超えるが、「理解できなかった」との回答が2件あった。

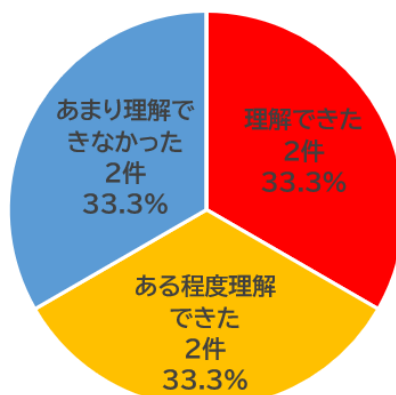
在籍生徒保護者においては、回答数が少なくはあるが、「理解できた」「ある程度理解できた」との回答のみであった。

未就学児保護者においては、「理解できた」「ある程度理解できた」との回答が6割あったものの、「あまり理解できなかった」との回答も2件あった。

在籍生徒保護者
(n=3)



未就学児保護者
(n=6)





2 調査結果

2.1 小中一貫教育（義務教育学校）の有効性について

○理解できた・ある程度理解できたと回答した理由（在籍児童保護者）

- ・ 第一子であり、高学年から中学生の子がもつ不安やギャップは想像できなかったもので、その点理解できた。発達には差もあると思うので、全員が一気に中学生、とされるより、シームレスだと感じた。
- ・ ③身体的発達の早期化という内容がわかりやすく、確かに現在の小学6年制ではもっていない、思春期のケア、体力面の向上による部活動への参加ができたらいいなと感じた。④の急な段差を上がりやすい階段へという内容もわかりやすかった。
- ・ 従来制度の導入当時と昨今の発達の早期化についてグラフ等で説明されており、現状で起きている問題（中1ギャップ）について解決策が提示されていた。
- ・ 中1ギャップが軽減されることはいいことだと思う。



2 調査結果

2.1 小中一貫教育（義務教育学校）の有効性について

○理解できた・ある程度理解できたと回答した理由（在籍児童保護者）

- ・小6から中1へのステップにおける教科のつまずきや心の不安も少し和らぐのではないかと思った。
- ・言いたいことは理解する。しかし各ポイントでの問題が現状解決できない理由がわからない。つまり本当にやる意味があるのかいまだに疑問。
- ・小中学校で学ぶ9年間で新しい形（義務教育学校）として、子どもたちや先生が勉強しやすく教育しやすい。
- ・9年間で一つの学校として中一ギャップをなくす、身体的、精神的発達に対応するといったことへの有効性重要性が理解できた。
- ・9年間の教育活動や教員の連携した学習指導の内容などわかりやすかった。



2 調査結果

2.1 小中一貫教育（義務教育学校）の有効性について

○理解できた・ある程度理解できたと回答した理由（在籍児童保護者）

- ・はっきりとしたビジョンが見えない。
- ・現状の施設分離側に賛成。小高は近距離に各学校があるため、環境変化がほぼない。今までも子どもたちを見守ってきている。理想の教育像を求めすぎている。中学生には中学生のやるべきことがある。普段から親にかわり先生たちが小さい子どもたちの面倒を見るのは大変。本来学習すべきことがおろそかになるので、小中は別にした方がよい。



2 調査結果

2.1 小中一貫教育（義務教育学校）の有効性について

○理解できなかった・あまり理解できなかったと回答した理由（在籍児童保護者）

- ・資料の作りがそのように感じました。
- ・文字が多い。
- ・必要性を感じない。施設分離型小中一貫としていながら地域に認知されていないのは取り組みや発信をしてこなかったから。今更一貫校としての今後を考えるのはおかしい。小学校、中学校それぞれの文化が育ち子どもたちが輝いている今、必要のない話だから。ギャップが人を成長させる。失敗やつまずき、悩みを経験せずに育った人間ほど危うい。それこそ社会に出たときに自立して生きていくことができない。



2 調査結果

2.1 小中一貫教育（義務教育学校）の有効性について

○理解できた・ある程度理解できたと回答した理由（在籍生徒保護者）

- ・小学校から中学校にあがる不安や子供と学校側の負担も減るし、いいことが多いのかと思ったから。

○理解できなかった・あまり理解できなかったと回答した理由（在籍生徒保護者）

（回答者なし）



2 調査結果

2.1 小中一貫教育（義務教育学校）の有効性について

○理解できた・ある程度理解できたと回答した理由（未就学児保護者）

- ・自身が一貫教育を受けてきたのである程度は理解できる。

○理解できなかった・あまり理解できなかったと回答した理由（未就学児保護者）

- ・資料を読むのが大変。



2 調査結果

2.1 小中一貫教育（義務教育学校）の有効性について

○結果を踏まえて

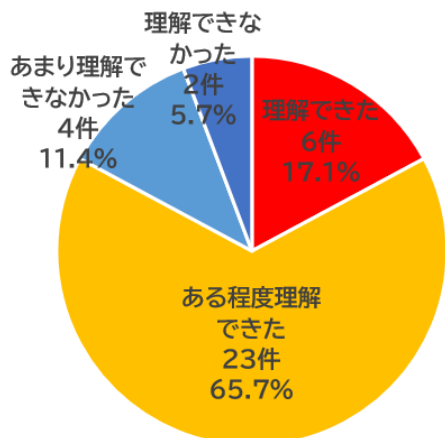
- 「小中一貫教育（義務教育学校）の有効性」については、回収率25.7%（35世帯）に留まるが、「理解できた」「ある程度理解できた」と回答した方が全体で77.2%を占めたことから、本資料によってある程度の理解は得られたと考えられる。
- その上で、在籍児童保護者においては、「中1ギャップの軽減」や「身体的発達の早期化への対応」など、小中一貫教育の導入の背景を理解したという声が多く見られる。一方で、「ギャップ（段差）を乗り越える経験も成長のために必要」といった理由から、小中一貫教育の有効性に疑問を持つ意見も一定数存在する。また、資料の内容自体は理解したものの、統合の意味については懐疑的な意見も存在した。
- 在籍生徒保護者や未就学児保護者からは概ね理解が得られている。



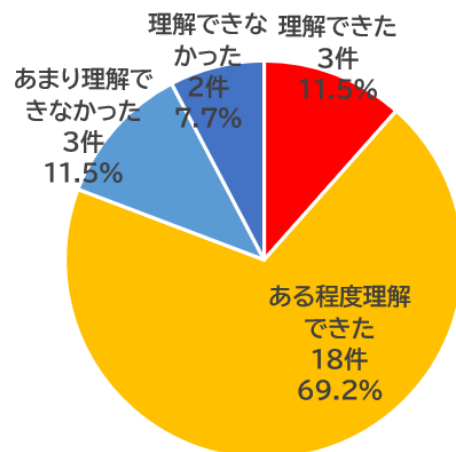
2 調査結果

2.2 施設一体型義務教育学校を目指す理由について

全 体
(n=35)



在籍児童保護者
(n=26)



「小高区で施設一体型義務教育学校を目指す理由」について、どの程度理解できたか（1つを選択）

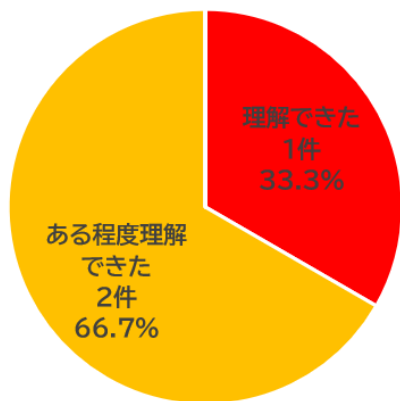
「小高区で施設一体型義務教育学校を目指す理由」について、資料を読んでどの程度理解できたか回答をいただいたところ、「理解できた」「ある程度理解できた」と回答した割合が、全体では82.8%（29件）となっている。

在籍児童保護者においては、「理解できた」「ある程度理解できた」との回答が8割を超えるが、「理解できなかった」「あまり理解できなかった」との回答も一定数存在した。

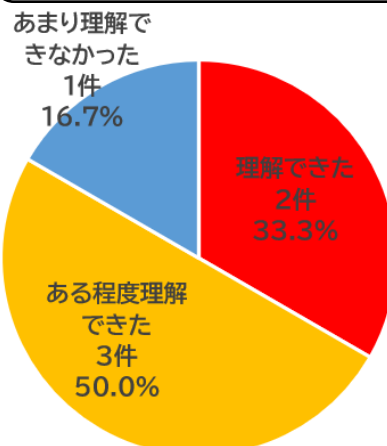
在籍生徒保護者においては、回答数が少なくはあるが、「理解できた」「ある程度理解できた」との回答のみであった。

未就学児保護者においては、「理解できた」「ある程度理解できた」との回答が5件であったが、「あまり理解できなかった」との回答も1件あった。

在籍生徒保護者
(n=3)



未就学児保護者
(n=6)





2 調査結果

2.2 施設一体型義務教育学校を目指す理由について

○理解できた・ある程度理解できたと回答した理由（在籍児童保護者）

- ・先生方はどう感じているのか。他自治体ではなく、市内の先生方の意見や考えも聞いてみたい。個人的には、教育委員会＜先生方の考え。
- ・9年間の連続した学びで小高だからこそ育める子どもたちの未来について期待できると感じた。ただ「多様な放課後活動」については、どのように実践していられるのかまだ内容は薄いと感じた。実践に向けて検討していきたい内容。
- ・将来的に目指しているビジョンが明確に示され取り組みもわかりやすかった。具体例があるととても現実味が増すと思う。
- ・先生の連携がとれ子どもにかかわる時間が増えてくれればいいと思う。
- ・他校や地域との連携で放課後の活動の幅が広がるのが理解できた。



2 調査結果

2.2 施設一体型義務教育学校を目指す理由について

○理解できた・ある程度理解できたと回答した理由（在籍児童保護者）

- ・ 同じく理解するが、その仕組みに先生たちはついていけるのか。
- ・ 生徒の人数も少ないので、施設分離型小中一貫教育より1つにまとまった1つの学校として義務教育を学べる。先生方の負担も減る。
- ・ 学校、教職員、組織が一つになることで施設分離型一貫校のデメリットを解消できることは理解した。
- ・ 未来を切り開く子どもを育てる取り組みがイメージできたから。
- ・ 構想は見たが、具体的な違いと必要性がわからない。
- ・ 記載内容は理解。ですが、なぜあえて小6から中1へのステップをつまづきと表記するのか。そこはチャレンジでは？さらなるステップアップは高校で。そして次へ。



2 調査結果

2.2 施設一体型義務教育学校を目指す理由について

○理解できなかった・あまり理解できなかったと回答した理由（在籍児童保護者）

- ・文字が多い。
- ・資料の作りがそのように感じました。
- ・施設が分離していることがとても重要。小学校と中学校の距離は問題になる距離ではない。やる気の問題。



2 調査結果

2.2 施設一体型義務教育学校を目指す理由について

○理解できた・ある程度理解できたと回答した理由（在籍生徒保護者）

- ・小中学校が一体化することによる期待される効果に共感できた。

○理解できなかった・あまり理解できなかったと回答した理由（在籍生徒保護者）

（回答者なし）



2 調査結果

2.2 施設一体型義務教育学校を目指す理由について

○理解できた・ある程度理解できたと回答した理由（未就学児保護者）

・子どもが個性を伸ばしながら教育を受けれるのは理想的であると思います。

○理解できなかった・あまり理解できなかったと回答した理由（未就学児保護者）

・資料を読むのが大変。



2 調査結果

2.2 施設一体型義務教育学校を目指す理由について

○結果を踏まえて

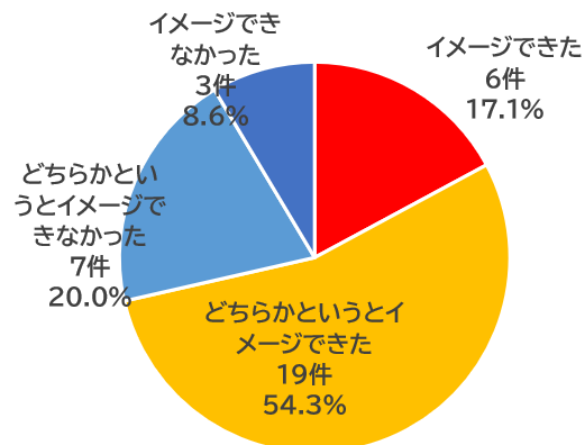
- 「小高区で施設一体型義務教育学校を目指す理由」については、回収率25.7%(35世帯)に留まるが、「理解できた」「ある程度理解できた」と回答した割合が全体で82.8%に達しており、本資料によってある程度の理解は得られたと考えられる。
- 在籍児童保護者においては、「9年間の連続した学び」や「教職員や組織が一つになることでの連携強化」「地域と連携した放課後活動」などのビジョンに期待する声が見られる。一方で、「施設は分離している状態が望ましい」「具体的な違いや必要性がまだよくわからない」など、施設を一体化することへの懸念や慎重な意見も存在する。
- 在籍生徒保護者や未就学児保護者においても肯定的な回答が多く、理解は得られたと考える。



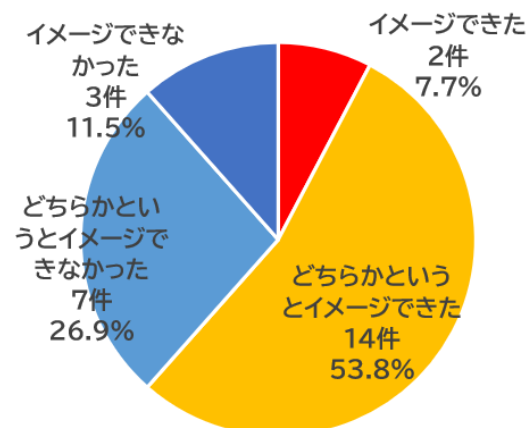
2 調査結果

2.3 新しい学校における基本的なイメージについて

全 体
(n=35)



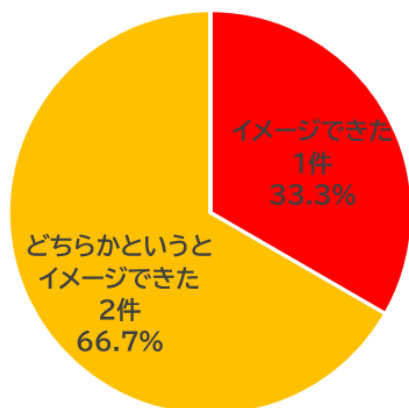
在籍児童保護者
(n=26)



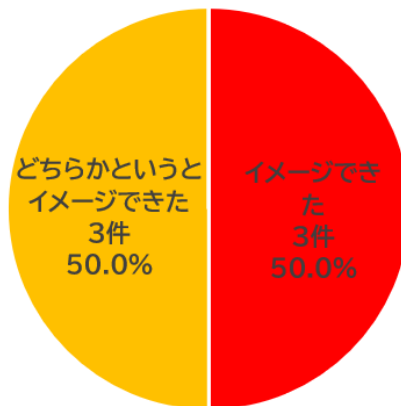
新しい学校における9年間の教育課程や学習活動について、基本的なイメージを持つことができたか。（1つを選択）

新しい学校における9年間の教育課程や学習活動について、基本的なイメージを持つことができたかについて回答をいただいたところ、「イメージできた」「どちらかというイメージできた」と回答した割合が、全体では71.4%（25件）となっている。

在籍生徒保護者
(n=3)



未就学児保護者
(n=6)



在籍児童保護者においては、「イメージできた」「どちらかというイメージできた」との回答が6割強に留まり、「イメージできなかった」「どちらかというイメージできなかった」との回答が4割弱を占めた。

在籍生徒保護者及び未就学児保護者においては、「イメージできた」「どちらかというイメージできた」との回答のみであった。



2 調査結果

2.3 新しい学校における基本的なイメージについて

○イメージできた・どちらかというイメージできたと回答した理由 (在籍児童保護者)

- ・他校の実際の様子を分かりやすく提示され、可能性を感じた。また今後は教職員の体制、これまでと同じように3～5年で異動があるのか、他校からのきた先生方は9年の義務教育学校に馴染めるのかなど、現場の実際も教えてほしい。
- ・他校の教育課程が参考資料として挙げられており漠然とではあるが、イメージできたと感じた。
- ・9年間同じ環境ではあるが、幅広い年齢層とのコミュニケーションがなんとなくイメージできた。
- ・他の学校の義務教育学校の例を見ることができたので、まったく同じでなくても似たようにできるのではないかと思った。1日の授業（日課表）をみることでよかった。



2 調査結果

2.3 新しい学校における基本的なイメージについて

○イメージできた・どちらかというイメージできたと回答した理由 (在籍児童保護者)

- ・ 9年間の学びのイメージは理解。しかし6年生の卒業にあたる節目のセレモニーは設けるのか触れられていない。現状、6年生が最上級であるという意識は大事だと考えている。そのあたりが他の義務教育学校ではどうなっているのか記載があるとよかった。
- ・ 現状の課題を読み、今後改善できるのかまだわからないが今後の取り組みに期待が持てる。
- ・ 9年間で街で育てるイメージなら、なぜこども園は含まないのか？と疑問。
- ・ イメージした上で、施設一体型の教育ではない方がいい。大人たちが子どもたちに期待し過ぎに感じる。新しい学びがどこにあるかと感じる。英会話教室に通わなくても子どもたちは使える英語を小中で学んだ（卒業生たち）。平日はNIKOパークの年齢制限を中学生や高校生も使用できるようにしてほしい。目指す姿のイメージが、上の子どもたちが受けてきた教育とほぼ変わらない。



2 調査結果

2.3 新しい学校における基本的なイメージについて

○イメージできなかった・どちらかというイメージできなかったと回答した理由 (在籍児童保護者)

- ・ 資料の作りがそのように感じました。
- ・ 自分の子のクラスでさえ、年に数回の参観日や15分の面談でしかわからないのに、この資料ではイメージがわからない。教育の方向性が示されたのはよかった。
- ・ 今の環境でもできることばかりでは？
- ・ 現状に不満はない。



2 調査結果

2.3 新しい学校における基本的なイメージについて

○イメージできた・どちらかというイメージできたと回答した理由 (在籍生徒保護者)

- ・児童数が減ってきている現状で、小中一貫にすることで、中学校、小学校の建物両方について有効活用にもなると思います。
- ・地域が教室になる、9年間でつながる未来を生きぬくイメージができた。

○イメージできなかった・どちらかというイメージできなかったと回答した理由 (在籍生徒保護者)

(回答者なし)



2 調査結果

2.3 新しい学校における基本的なイメージについて

○イメージできた・どちらかというイメージできたと回答した理由 (未就学児保護者)

- ・ 図があってわかりやすい。

○イメージできなかった・どちらかというイメージできなかったと回答した理由 (未就学児保護者)

(回答者なし)



2 調査結果

2.3 新しい学校における基本的なイメージについて

○結果を踏まえて

- 「新しい学校における9年間の教育課程や学習活動について、回収率25.7%(35世帯)に留まるが、基本的なイメージを持つことができたか」については、「イメージできた」「どちらかというイメージできた」と回答した割合が全体で71.4%であった。
- しかし、在籍児童保護者に限ると肯定的な回答は61.5%に留まっている。イメージできた方の中にも、小高小・小高中が施設一体型義務教育学校になることへの不安や懐疑的な意見が見られた。
- 在籍生徒保護者や未就学児保護者においては、肯定的な回答が多かった。



2 調査結果

2.4 小高小・小高中の今後のあり方について

小高小・小高中の今後のあり方についての意見等（在籍児童保護者）

- ・義務教育学校であろうと、なかろうと南相馬市が子どもの未来を考え行う施策なら特に反対があるわけではない。ただこの資料の作り方は施設一体型義務教育学校ありきでと言っているかのようです。ならば最初からそう言ってもらった方がとてもわかりやすい
- ・商業高校跡の利活用について先日アンケートが届いた。この資料には一切記載がないが、一部利用するなど計画はあるか？一緒に考えるべき。せっかくな広大な土地なのでぜひ子どもたちの声がひびくように期待している。
- ・わかりやすい資料の作成ありがとうございます6、3の区切りにとらわれないということなので、個人的には「4，3（思春期），2」のような形を希望する。これが実現できるなら、義務教育学校になる意義があり、大いに期待したい。
- ・一貫校の重要性の高まりは理解できたがまだまだ課題も多くあり、起こりうるであろう問題や起こる可能性のあるトラブルについても今後も協議を重ねてほしい。
- ・今まで通りでいいと思う。



2 調査結果

2.4 小高小・小高中の今後のあり方について

小高小・小高中の今後のあり方についての意見等（在籍児童保護者）

- ・他の地区からの保護者からもこの学校に通わせたいと思われるような学校になってくれたらいいと思う。
- ・市内とか全国で同じ問題ならばなぜ一気に変わらないのか、変えないのか。
- ・デメリットの事例と、その対策への説明と議論が今後必要かと思う。
- ・未来の子ども達のためにいろいろと考えてくださりありがとうございます。小学校、中学校がなくなってしまうのは悲しいですが、これから先、未来に向かって小高の子どもたちの新しい学びの場をよろしくお願いします。
- ・施設一体型義務教育学校に移行することは賛成。しかしそもそも反対意見が多ければ白紙に戻すのか、反対多数であっても最終的には実施するのかがはっきりしない。なぜ必要なのかの説明や意見をきくことは大事だが、するのかしないのか明確にしてほしい
- ・施設分離型で進めるべき。ギャップをなくすことは絶対あってはならない。発達段階から小中の指導に差があるのは当然。



2 調査結果

2.4 小高小・小高中の今後のあり方について

小高小・小高中の今後のあり方についての意見等（在籍児童保護者）

- ・小高小を卒業後は学童がないので、中学校の放課後の居場所を考えて欲しいです。
- ・Zoomなどを活用した乗り入れ授業はできないのか。静岡県の両川内中学生とは交流があるのではないかと？現状の小高小・中教育に改善すべき点はないと思う。あるとすれば、徒歩や自転車で学校に通う子どもたちが増えて欲しい。大人に頼りすぎ教育には近道よりも遠いけどまわり道が必要ではないか。環境変化をつけるためあえて施設分離型が望ましい。すべてを学校任せにしない。子どものことは親が責任をとる。現状で今後も継続してほしい。



2 調査結果

2.4 小高小・小高中の今後のあり方について

小高小・小高中の今後のあり方についての意見等（在籍生徒保護者）

- ・ 小学校から中学校への接続を強めるということはわかりました。その内一緒になるということですか？簡単に一緒になれるのですか？

小高小・小高中の今後のあり方についての意見等（未就学児保護者）

- ・ できれば小学校にも、制服があって欲しいです。地域にとっても一目見て小学生なんだ！と分かるし、冠婚葬祭で役に立つし、何より子供自身が学校の時は制服を着ないといけない、準備がスムーズにできると思いました。
- ・ 子どもたちが笑顔で楽しく、安心して学校生活を送れば、ほかに望むことはありません。そのために、先生方も余裕を持って楽しく明るく過ごしてほしいと思います。